

「足寄活性化」へ会社設立

役場早期退職の櫻井さん

【足寄】41年間務めた足寄町役場を3月末で早期退職した櫻井光雄さん(59)は町南7条4丁目が4月、まちづくり会社を設立した。若者世代の住まいや雇用を創出し、移住・定住を進めることで地域の活性化を目指す。

農林業軸に雇用創出

櫻井さんは1956年足寄町生まれ。足寄高校卒。75年に足寄町役場入り。総務課を振り出しに、住民課長、経済課長などを務めた。退職時は福祉課長。在職中は、放牧酪農や新規就農の推進、高齢者等複合施設「むすびれっじ」の整備などを担当。定年を1年後に控え3月末で退職した。

会社は一般社団法人「びびっとコラボレーション」(町南7条4、出資金300万円)。先月、会社登記



「民間の立場で古里に恩返ししたい」と抱負を語る櫻井さん

を済ませた。櫻井氏と町商工会長の丸山勝由氏が代表理事を務める。櫻井氏は

最高経営責任者(CEO)に就いた。監事は税理士の川村幸雄氏(足寄)。社名は「生き生きとした」という意味の「びびっと」と協力・連携・共同作業やその成果を意味する「コラボレーション」を組み合わせ、会社が目指すコンセプトを表現した。5月19日に国道242号沿いの南2条

1に「コラボ相談室」を設け、活動の拠点とする。移住・定住者の雇用や住まいの確保、道外者を対象にした放牧酪農塾、農業女子塾などの企画・運営、農工商連携による地域特産物のブランディング事業などを

古里に恩返しを

櫻井氏に会社設立の狙いや事業計画などを聞いた。

(聞き手・鈴木裕之)

―役場を退職して会社を設立した思いを。

町の人口減少に歯止めをかけるためには、経済を再構築しなければならぬ。行政が取り組むべきことはあるが、一方で役所ではできないこともある。商工業者や農業者と手を組み、地域経済を活性化させるために民間に身を投じる決意を固めた。

―地域活性化に必要なものは。

道外から移住者を受け入れるための仕事づくりが最も重要だ。農林業を軸にし

手掛ける計画。

業務の対象地区は、地元足寄を中心に本別、陸別の池北3町。問い合わせは090・2696・8746か0156・28・0280(5月19日以降)へ。

(鈴木裕之)

た雇用の創出で、特に若者を呼び込みたい。

―役場職員としての経験をどう生かすか。

役場の同僚・先輩やさまざまな機関・団体の関係者の指導をいただいて今の自分がある。その人脈を活用しながら、仕事を手伝ってもらえる仲間を増やしていきたい。

―新会社を経営する意気込みを。

地方創生は今がラストチャンス。町を変えるのは「若者」「よそ者」「はか者」と言われるが、私は「はか者」になる。自分の思いをぶつけて、古里に恩返しする覚悟だ。